

株主の皆様へ

第13期報告書 2019年4月1日 > 2020年3月31日



代表取締役社長 松本 清雄

ごあいさつ

株式会社マツモトキヨシホールディングスの第13期連結累計期間(2019年4月1日～2020年3月31日)のご報告と第14期の取組みについてご説明するにあたり、ここに謹んでご挨拶申し上げますとともに、株主の皆様の平素のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

第13期 連結累計期間の業績について

当連結会計年度(2019年4月1日～2020年3月31日)におけるドラッグストア業界におきましては、業種・業態を越えた競合企業の新規出店、商勢圏拡大に向けた新たなエリアへの侵攻、M & Aによる規模拡大、同質化する異業種との競争、それらが要因となる狭小商圏化など、我々を取り巻く経営環境は厳しい状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループは、戦略テーマとして「専門性×独自性による美と健康の地域貢献」「既存の枠にとらわれない新しいビジネスの創造」「企業価値を高めるグループ経営の高度化」の3つを新たに設定し取組むとともに、ヘルス&ビューティー分野で圧倒的なプレゼンスを獲得し、国内ドラッグストアの競争に勝ち残ることを目的に、株式会社ココカラファインと経営統合に向けた基本合意書及び経営統合に向けた資本業務提携契約を締結するなど、将来のグループシェア拡大に向けた取組みも積極的に推進してまいりました。

具体的には、厚生労働省が進める「健康サポート薬局」の認可を受けた店舗において地域医療連携を推進するとともに、一部エリアに限定していた調剤サポートプログラムの契約を全国に拡大し、エリアシェア拡大に向けた主要都市での至近距離出店、インバウンド需要獲得のための新たな立地への展開及び既存店における免税対応店舗の拡大を図り、これら店舗から得られた各種データを活用することで立地・環境に合わせた最適な品揃えを実行してまいりました。

また、プライベートブランド(PB)商品に関しましては、近畿大学と「PB商品共同開発プロジェクト」を立ち上げ産学連携となる新たな取組みを推進するなどPB商品の拡充に努めてまいりました。

海外事業としましては、中華人民共和国における越境ECは順調な伸長を続け、タイ王国での「マツモトキヨシ」店舗の展開は進出から4年を迎え31店舗となり、台湾におけるドラッグス

トア事業に関しましては9号店をオープン、次の展開エリアとして、ベトナム社会主義共和国ではロータス・フード・グループ株式会社と「マツモトキヨシベトナム ジョイント ストックカンパニー」を設立し1号店オープンに向けた準備を進めるとともに、中華人民共和国香港特別行政区への進出予定を公表するなど、インバウンドだけでなく国外においても外国人のお客様需要の獲得を図っております。

新規出店に関しましては、グループとして高知県内1号店となる「帯屋町店」、空港における国際線ターミナルFC店となる「成田国際空港第2ターミナル3F店」「成田国際空港第2ターミナルB1F店」、直営店としては「中部国際空港第2ターミナル店」、ホテル内として「APA HOTEL東京ベイ幕張店」のオープンなど、多彩なフォーマットで展開できるノウハウを生かし、グループとして95店舗をオープンしました。また、48店舗の改装を実施するとともに、32店舗の閉鎖など収益構造の改革も着実に進めております。その結果、当期末におけるグループ店舗数は1,717店舗となりました。

これらの取り組みにより、2020年も世界最大のブランディング専門会社 インターブランド社より、グローバルに展開される日本発のブランド価値評価ランキング「Best Japan Brands 2020」において81位となり、日本のドラッグストアとしてナンバー1ブランドの評価をいただきました。

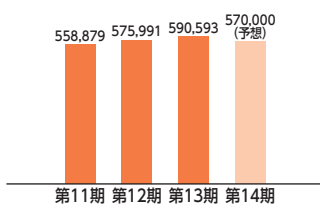
さらに、当社の健康経営に関する各種の取り組みが評価され、経済産業省「健康経営優良法人 2020(大規模法人部門)」にも認定されました。

以上の結果、売上高5,905億93百万円(前期比2.5%増)、営業利益375億63百万円(同4.3%増)、経常利益399億85百万円(同2.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益261億76百万円(同4.6%増)となり、売上及び各利益とも5期連続で過去最高となりました。

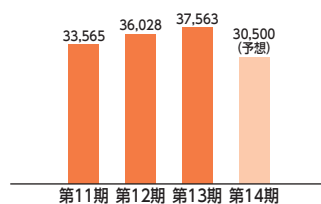
連結財務ハイライト

「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第12期の期首から適用しており、第11期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

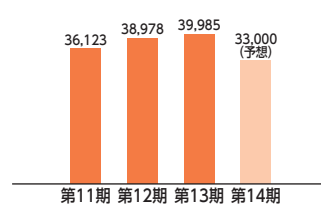
売上高 (百万円)



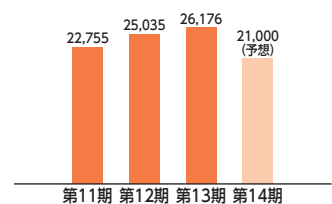
営業利益 (百万円)



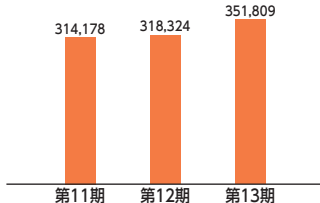
経常利益 (百万円)



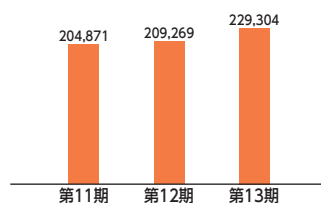
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



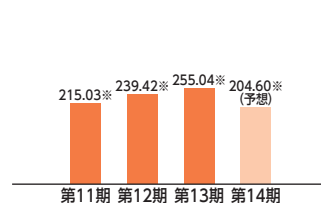
総資産 (百万円)



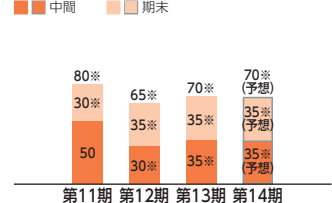
純資産 (百万円)



1株当たり当期純利益 (円)



1株当たり配当金 (円)



※当社は、2018年1月1日(第11期)付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり当期純利益」及び「1株当たり配当金」は、当該株式分割後の金額を記載しております。

経営方針（中期経営計画）

グループ経営理念

あなたにとっての、いちばんへ。

1st for You.

経営ビジョン

美と健康の事業分野において
『アジアNo.1となること』
を目指す。

経営目標

2023年度
グループ売上高 1兆2,000億円
営業利益率 6.5%以上
ROE 10%以上

対処すべき課題

当社グループは、“美と健康の分野においてなくてはならない企業グループ”となり、更に、将来的に“美と健康の分野でアジアNo.1”となることを目指して、3つの重点戦略「デジタル化の更なる高度化」、「グローバル化の更なる進展」、「専門領域での事業規模拡大」を設定し、取り組んでまいります。

当社グループの対処すべき課題は、次のとおりであります。

① デジタル化の更なる高度化

当社グループは、急速に進化するITを活用することで、お客様の生活スタイルの変化や嗜好・ニーズを的確にとらえ、一人ひとりのお客様との距離を縮め、深く繋がれるようデジタルマーケティング基盤を中心に強化しております。その結果、6,950万を超えるお客様との接点を活用した高い分析力により、当社にしかない商品の開発やメーカー様向けブランドマーケティング支援などの新しい収益の柱を創出に努めており、当社が培ってきた技術

やノウハウの更なる高度化を推進することで収益拡大に繋げ、企業価値の向上に努めてまいります。

② グローバル化の更なる進展

当社グループは、海外SNSを活用したクーポン配信やキャッシュレス決済対応などをはじめ、アジアを中心とした海外店舗展開やグローバル会員獲得に向けた仕組みづくり、海外で支持される商品の開発、提供などに積極的に取り組むことで蓄積されたノウハウを最大限に活用し、美と健康への意識が高まっているアジア地域にお

ける事業基盤を早期に確立することを目指してまいります。

③ 専門領域での事業規模拡大

当社グループは、競争がますます激しくなる環境の中において、M&A、フランチャイズ事業や当社独自の仕組みと強みを活用した業務提携などを強化していくとともに、三大都市圏におけるエリアドミナント化推進や次世代ヘルスケア・調剤事業の拡大を基軸として、次なる成長ドライバーの早期確立を進めてまいります。

店舗ネットワーク（2020年3月31日現在）

北海道・東北エリア 93 店舗展開	甲信越エリア 123 店舗展開	関東エリア 943 店舗展開	東海・北陸エリア 158 店舗展開	関西エリア 145 店舗展開	中国・四国エリア 64 店舗展開	九州・沖縄エリア 191 店舗展開
----------------------	--------------------	-------------------	----------------------	-------------------	---------------------	----------------------



株式会社 マツモトキヨシ ホールディングス

グループ
店舗総数 1,717 店舗



(本社)千葉県松戸市

全国に977店舗展開

株式会社 マツモトキヨシ 甲信越販売

(本社)長野県長野市

甲信越エリアに123店舗展開

株式会社 マツモトキヨシ 東日本販売

(本社)宮城県仙台市青葉区

北海道・東北エリア・関東エリアに171店舗展開

株式会社 マツモトキヨシ 中四国販売

(本社)岡山県岡山市南区

中国・四国エリア・関西エリアに76店舗展開

株式会社 マツモトキヨシ 九州販売

(本社)福岡県福岡市博多区

九州・沖縄エリアを中心に164店舗展開



(本社)石川県金沢市

東海・北陸エリアに43店舗展開



(本社)東京都墨田区

関東エリアに141店舗展開

株式会社 マツモトキヨシ ファーマシーズ

(本社)千葉県松戸市

関東エリア・関西エリアに調剤薬局22店舗展開

「マツモトキヨシ」の海外展開について

- ①当社とCentral Food Retail Company Ltd.の共同出資により設立しましたセントラル&マツモトキヨシ リミテッドを通じてタイ王国に31店舗展開しております。
②台湾松本清股份有限公司を通じて台湾に9店舗展開しております。
※タイ王国の31店舗及び台湾の9店舗は、上記グループ店舗総数に含んでおりません。

matsukiyo W/M AAA(マツキヨ ウーマンメソッドトリプルエー)

商品開発コンセプト

最高品質を追求し、「肌悩みを抱える女性たちの美しさをつくるメソッド」を具体的に提案するブランドです。

商品開発担当者の想い

「効果を実感できる商品は価格も高くなる」という化粧品業界の常識を覆そうという意図に基づいて開発しました。品質と価格の満足感を両立させることを目指しています。

商品のいちおしポイント

肌にたっぷり潤いを与え、持続させるためのこだわりのトリートメント成分「アデノシン三リン酸」「リピジュア」「氷河海藻エキス」をシリーズ共通成分として配合しました。

また、肌に不要な負担をかけないやさしさと、使い続けられる価格で、毎日惜しみなくたっぷりとお使いいただけるようにしました。



価格 925～1,480円※税抜

発売日 2019年11月11日

matsukiyo EXSTRONGシリーズ

商品開発コンセプト

matsukiyo エクストロングシリーズは、“マツキヨらしい面白さや驚き、喜び、楽しさなどの情緒的な価値”を訴求したmatsukiyoブランドの象徴となる商品シリーズです。シリーズはエナジードリンクの他、スパークリングウォーター、タブレット、グミと、枠にとらわれない独自の商品開発力で、エクストロングシリーズのラインアップ拡充を図っています。

商品開発担当者の想い

今までにない“驚き”を提供するために、配合成分量や缶色と液色のギャップにこだわり、さらに、この色でこの味が！と思っていただけるように工夫いたしました。

商品のいちおしポイント

缶色と液色のギャップにこだわっていますので、ぜひグラスに注いで飲んでみてください。液色からは想像もつかない味も、いちおしポイントのひとつです。



価格 85～139円※税抜

最新作「HAPPY&SALT」発売日

2020年6月11日

TOPICS

経済産業省「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」に認定されました。

当社はこのたび、従業員の健康管理を経営的な視点でとらえ、戦略的に実践する「健康経営」の取り組みが優良であると認められ、経済産業省と日本健康会議が共同で選出する「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」に認定されました。今後も当社グループは、従業員の健康維持/増進を図ることを経営の重要項目の一つとして取り組むとともに、「地域の皆様に信頼され支持されるかかりつけのドラッグストアグループ」を目指し、健康寿命延伸に向けた「セルフメディケーション」を推進してまいります。

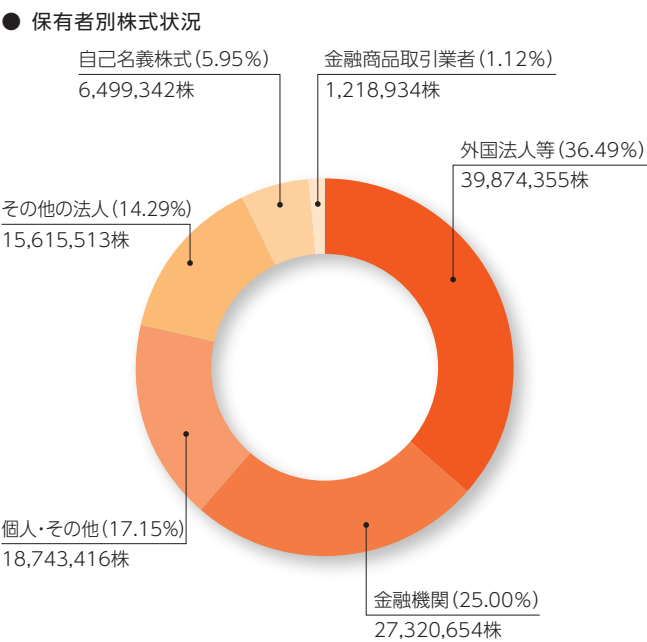
※「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。



会社概要・株式の状況 (2020年3月31日現在)

会社概要	
● 名称	株式会社マツモトキヨシホールディングス
● 所在地	〒270-8511 千葉県松戸市新松戸東9番地1
● 電話番号	047-344-5110(代表)
● 設立	2007年10月1日
● 資本金	220億51百万円
● 事業内容	子会社の管理・統轄及び商品の仕入・販売

株式の状況		
● 発行可能株式総数	420,000,000株	
● 発行済株式総数	109,272,214株	
● 株主数	23,499名	
● 大株主(上位10名)		
株主名	保有株式数 (単位:株)	持株比率 (単位:%)
株式会社マツモトキヨシホールディングス	6,499,342	5.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,218,600	4.78
株式会社千葉銀行	4,515,600	4.13
株式会社南海公産	4,287,176	3.92
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,461,800	3.17
松本 南海雄	2,944,040	2.69
JP MORGAN CHASE BANK 385632	2,824,622	2.58
エーザイ株式会社	2,815,000	2.58
松本 貴志	2,518,040	2.30
松本 清雄	2,516,260	2.30



役員 (2020年6月26日現在)			
代表取締役会長	松本 南海雄	社外取締役	大村 宏夫
代表取締役社長	松本 清雄	社外取締役	木村 恵司
専務取締役	松本 貴志	社外取締役	沖山 奉子
常務取締役	大田 貴雄	常勤監査役	本多 寿男
取締役	小部 真吾	社外監査役	小池 徳子
取締役	石橋 昭男	社外監査役	渡辺 昇一
社外取締役	松下 功夫		

株主メモ	
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
1単元の株式数	100株
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード3088)
公告の方法	電子公告 公告掲載URL https://www.pronexus.co.jp/koukoku/3088/3088.html ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主優待について

当社は、株主の皆様へ、日頃よりご愛顧
いただいております感謝の気持ちを込め
まして、株主優待として、年2回、当社
グループの店舗でご利用可能な商品券を
お送りしております。
是非とも当社グループの店舗をご利用く
ださいようお願いいたします。

株主優待の内容

優待内容: 当社グループ店舗で利用可能な商品券

対 象: 毎年3月末及び9月末現在の当社株主名簿に記載又は
記録された1単元(100株)以上所有の株主様

贈呈基準: 100株以上500株未満 2,000円分
500株以上1,000株未満 3,000円分
1,000株以上 5,000円分

贈呈時期: 毎年以下の時期の発送を予定しております。
・基準日が9月30日の場合は12月上旬
・基準日が3月31日の場合は6月下旬

(注) 調剤薬局にて医療機関より処方される処方箋には利用できませんのでご了承ください。